Arai HELMET
Racing Specialities

保存版

ラパイド-IR

Rapide-IR
取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

本書の各図記号は以下のような意味を表しています

危険 注意　左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと！

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければノーヘル状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を締めてください。

▼ヘルメットは必ず試着を行ってください。

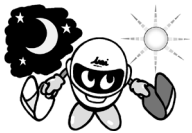
安全のためには、「自分の頭に合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということが大切です。サイズの合っていないヘルメットでは十分な安全性能を発揮することはできません。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、モデルによってフィット感が各々異なります、以下の①～③を試着のポイントとしてヘルメットをお選びください。

ポイント① ヘルメットはモデルが異なるとフィット感も微妙に異なるため、必ず希望するモデルを試着すること。

ポイント② かぶった状態で頭を前後左右にブンブン振っても、頭の動きに対してヘルメットが遅れずに追従すること。

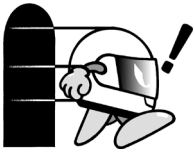
ポイント③ 内装素材の改良によって、「少しきつめのサイズを選んでおけば、使っているうちに次第に馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付け（圧迫など）を感じないサイズのヘルメットをお選びください。

▼走行条件にマッチしたシールド色をお選びください。



周りが暗くなってきたのにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が７０％以上のシールド（アライヘルメット純正品パーツのクリアーシールド・ライトスモークシールド）に交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。

▼走行中の急激な環境変化に注意する。



走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温、湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時には、シールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。

▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤（食器洗い用）で洗い、汚れや油分を落としてから８００番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーは塗料に含まれる溶剤に侵されると、溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に５０℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、ポリカーボネート用塗料をご使用ください。

▼衝撃を受けたヘルメットは使用不可！

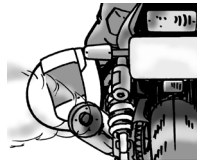
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え外観に大きなキズが見られなくても衝撃吸収のために内部構造は壊れています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。

※ヘルメットの検査は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。

▼ヘルメットの持ち運びには注意！

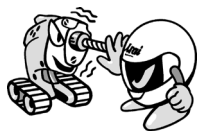


ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。

▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを５０℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合は使用をお止めください。

▼ヘルメットの改造は厳禁！



ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。

▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でないツルツルした場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが滑り落ちるおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で１ｍ以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。※１ｍ以下からの落下であっても、同じ所に何度も衝撃が加わった場合にはヘルメットの性能が損なわれます。

▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲内にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したり、ヘルメットを「なわばり」と主張したり、猫が中で寝てたりする場合があります。また、齧歯類（げっしるい）の場合には内装生地やウレタンのクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。

▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。

▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません！

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、ＳＧマーク※の有効期限である三年を目安に、着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※財団法人製品安全協会の被害者救済制度

▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、キズや磨耗、破損を発見した場合はパーツの早期交換をお勧めいたします。

▼ヘルメットの製造年月日について。

ヘルメットの製造日は、ヘルメットの内面に貼られた「検査ラベル」で確認できます。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示された「年月日」は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造日とは直接関係ありません。

Peripherally Belted－cLc

ＰＢ－ｃＬｃの前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけては従来のｃＬｃ構造に加え、スーパーファイバークロスで補強を行い、帽体剛性を高めています。

ブローベンチレーション

ブローベンチレーションダクトから取り入れられた外気は、インナーサイドダクトによってこめかみ部分へと導かれる。

ＩＣ－４ダクト

スイッチの大型化によって操作性を向上。外気をヘルメット内部へと導く。

ＡＣＲダクト４

ワンタッチ操作で三カ所の排気口が同時開閉。その特徴的な形状は高速走行時にヘルメットを安定させるスポイラーとしても機能。

サイドエキゾーストダクト

ヘルメットの側面の気流を整える機能も併せ持つサイドエキゾーストダクトは、ヘルメット下部や耳周りに停滞する空気を適度に排出し、内部環境を快適に保つ。

ＩＲマウスシャッター

デフロストモードとインダクションモードの二つの機能を併せ持つ大型のマウスシャッターを採用。その外観は、初代から受け継がれてきたラパイドシリーズ最大の特徴である三本スリットのイメージを踏襲。

ＩＲスポイラーエッジ

ヘルメットのアゴ部分に取り付けられたＩＲスポイラーエッジが、高速走行時のヘルメット下部を流れる空気を整えてヘルメットを安定させる。

ＩＲフルシステム内装の快適なフィット感

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたＩＲフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

新設計ＩＲ－ＦＣＳパッド

内部構造にＦＣＳを取り入れたＩＲ－ＦＣＳパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

超撥水加工生地を採用

ＦＣＳパッドとシステムネックの一部には超撥水加工生地が使用され、雨天走行時のヘルメット下部への浸水が抑えられています。走行後の濡れたヘルメットのお手入れも、ヘルメット外回りの水分を乾いたタオルで拭き取るだけのカンタン手間いらず！　翌日、湿り気の残ったヘルメットではなく、乾いたヘルメットを快適にご使用いただけます。

Rapide-IR

①ブローベンチレーション
②ＩＣ－４ダクト
③ＡＣＲダクト４
④サイドエキゾーストダクト
⑤ＩＲマウスシャッター
⑥ＩＲスポイラーエッジ

⑦ＦＣＳパッド・Ｌ／Ｒ※
⑧システム内装
⑨ストラップカバー・Ｌ／Ｒ
⑩システムネック※

※超撥水加工生地を一部に使用。

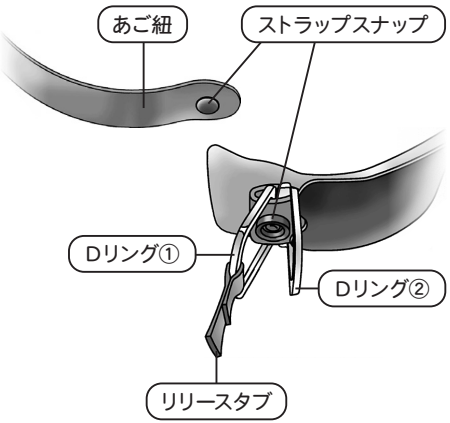
目次

A	あご紐の正しい締め方	８～９ページ
B	ブローシャッターの操作	１０ページ
C	シールドの開閉方法	１０ページ
D	デミスト機能の使い方	１１ページ
E	マウスシャッターの操作	１１ページ
F	ベンチレーションの操作	１２ページ
G	ディフレクターの着脱	１３ページ
H	エアロフラップの操作	１３ページ
I	シールドの外し方	１４～１５ページ
J	シールドの付け方	１６ページ
K	ホルダーの着脱	１７ページ
L	シールドベースの着脱	１８～１９ページ
M	ＦＣＳパッドの着脱	２０～２１ページ
N	パッドカバーの着脱	２２～２３ページ
O	ストラップカバーの着脱	２４～２５ページ
P	システムネックの着脱	２６～２７ページ
Q	システム内装の着脱	２８ページ
R	ヘルメットのサイズ調整	２９～３１ページ
S	ヘルメットのお手入れ	３２～３３ページ
T	オプションパーツリスト	３４～３５ページ

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

あご紐の各部名称



1. 二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。

2. あご紐を180° 折り返す

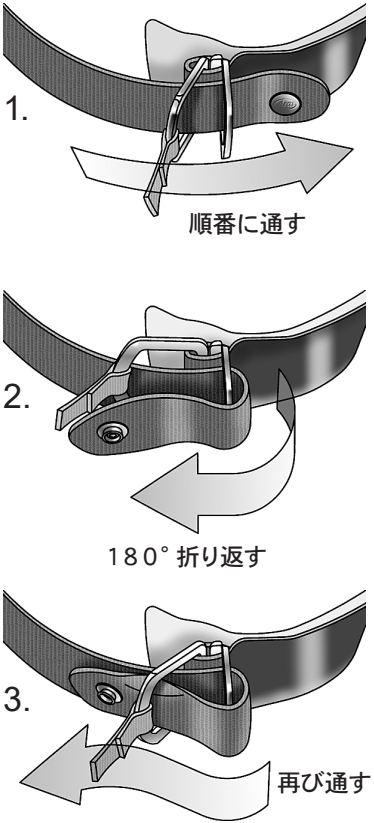
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱって緩みを取り除きながら180° 折り返します。

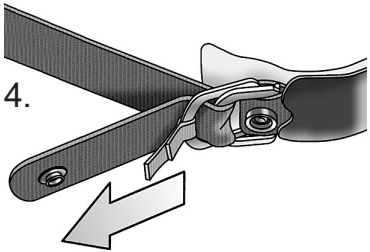
3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

危険

あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



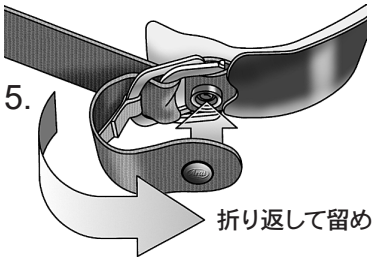


4. あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

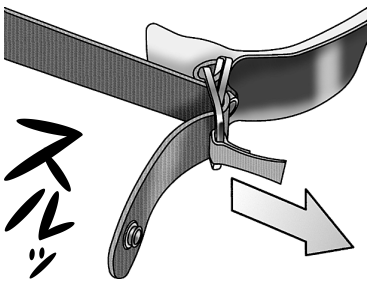
※人差し指と中指の一番太いところが直径２ｃｍ未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端部をストラップスナップで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

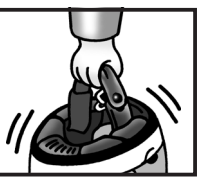
あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



リリースタブの使い方

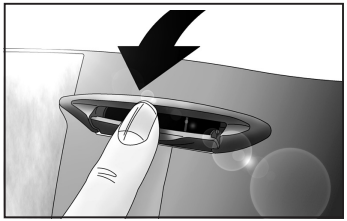
あご紐先端のストラップスナップを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。

ストラップスナップを留めただけの状態であご紐を持たないでください。ストラップスナップが外れ、ヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



B ブローシャッターの操作

ブローシャッターはシャッターフィンの中央に指をかけて引き下げると開きます。閉じる時はシャッターフィンを止まる位置まで押し上げます。



C シールドの開閉方法

①シールドを開く

シールドを開くにはシールドロックの解除を行う必要があります。シールドの左下の黒いロックレバーの下に指をかけ、外側に少し広げながら上げるとシールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。

②シールドを閉じる

ロックレバーを止まる位置まで下ろします。シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、シールドが開かなければＯＫです。

シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ロックレバーやヘルメット側のロックベースが破損します。

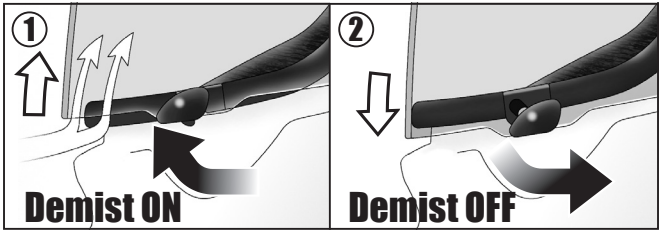
D デミスト機能の使い方

①デミストON（シールド微開）

ロックレバーを斜め上方に押し出すと、【デミストポジション】へと移行します。このポジションでは、隙間から入り込む風によってシールドの曇りが軽減されます。

②デミストOFF（シールドロック）

ロックレバーを斜め後方に引き下げると、シールドロック位置に戻ります。このポジションでシールドは適切なロック状態となります。



注意

シールドロックの不完全防止のため、デミストポジションからシールドを全閉にする場合には、必ずロックレバーを【デミストOFF】の位置に戻してください。

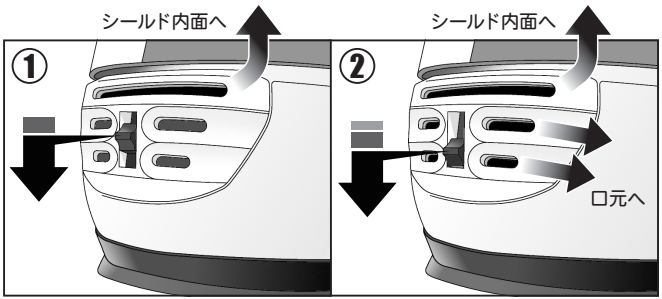
E マウスシャッターの操作

①デフロストモード

中央のスイッチを1段下げると最上部だけスリットが開いて【デフロストモード】となり、取り入れた外気をシールド内面に吹き付けてシールドの曇りを軽減します。

②インダクションモード

スイッチを【デフロストモード】から更に下げると【インダクションモード】となり、シールド内面への外気導入に加え、下方4つのスリットから口元へと外気を導きます。

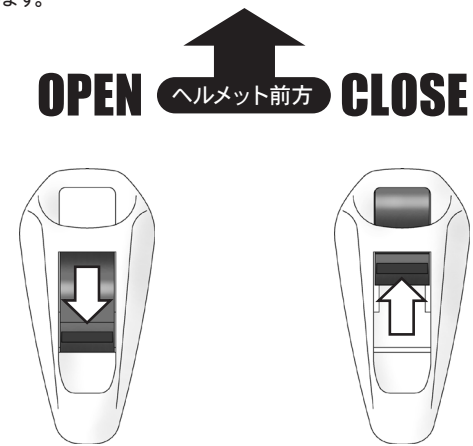


Defrost Mode **Induction Mode**

F ベンチレーションの操作

ＩＣ－４ダクトのシャッター開閉

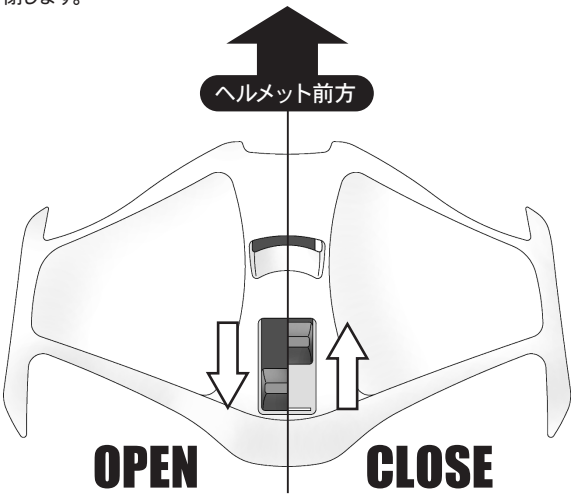
ダクト上面にあるスライドスイッチ（突起部）を後方に移動させるとシャッターが開き、スライドスイッチを前方に移動させるとシャッターは閉じます。



雨の日はＩＣ－４ダクトのシャッターを閉じてご使用ください。

ＡＣＲダクト４のシャッター開閉

ダクト上面にあるスライドスイッチ（突起部）を後方に移動させるとシャッターが開き、スライドスイッチを前方に移動させるとシャッターは閉じます。



※各シャッターの開閉時のタッチ（感触や音）は、ダクトの内部構造の違いによりそれぞれ異なります。

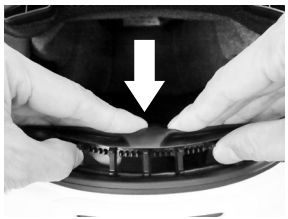
G ディフレクターの着脱

ディフレクターの外し方

ディフレクターの端をしっかりと掴んで引き上げると、ディフレクターを外すことができます。

ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。



マウスシャッターのスイッチレバーをヘルメットの中心の目安とします。

H エアロフラップの操作

フラップの展開

フラップの下部中央をつまんで、矢印の方向に引き出します。

※写真は、エアロフラップを最大限に引き出した状態。

フラップの格納

フラップの下部中央を、矢印の方向に止まるまで押し上げてください。

※ヘルメットを脱ぎかぶりする時は、エアロフラップを格納してください。

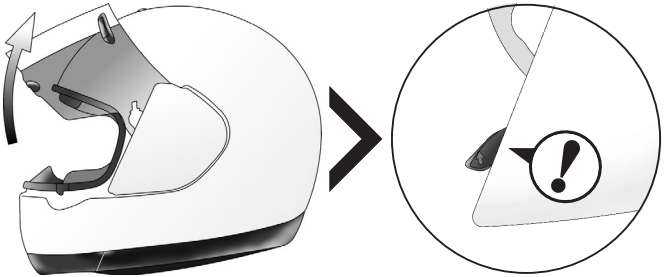
ヘルメットを持ち歩く際にディフレクターやエアロフラップを持つと、ディフレクターやエアロフラップが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

Ⅰ シールドの外し方

①シールドを全開にする

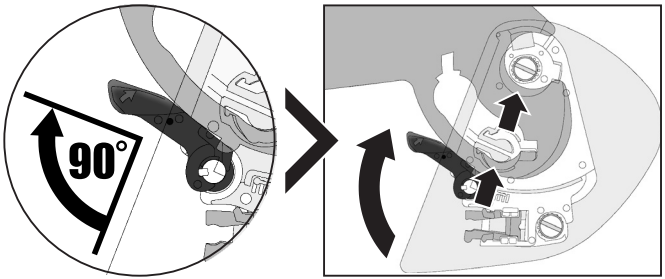
まず、左側からシールドの取り外しを行います。シールドロックを解除してシールドを全開にすると、シールドの動きと連動してホルダー内から【リリースレバー】が現れます。

シールドを全開にしていないと、シールドを取り外すことはできません。



②リリースレバーを操作する

シールドが全開になっているのを確認してリリースレバーの下に指をかけ、レバーに刻印された矢印の方向に引き上げます。ホルダー前方の直線ラインに対して約９０度の角度になるまで動かすことでリリースレバーがシールドを押し上げ、シールドベースに設けられた段差（内部ロック）を乗り越えてシールドが取り外せるようになります。



シールド左側を抜き取る際に生じるシールドのたわみにより、反対側のシールドに無理な力が加わるおそれがあります。左側を取り外す時には、右側のリリースレバーは同時に上げないでください。

③シールドを抜き取る

内部ロックの解除が完了したら、シールドを全開位置から更に開くようにして、シールドをホルダー内から抜き取ってください。

内部ロック解除の後、そのままの状態でヘルメットを放置すると、シールドが再ロックされてしまう場合があります。

④右側も同じ手順で

左側の取り外しが完了したら、ヘルメットを持ち替え、右側のリリースレバーを押し上げ、内部ロックの解除を行います。そして左側と同様にシールドを全開位置から更に開くようにしながら、シールドをホルダー内から抜き取ってください。

シールド着脱作業は必ず手が乾いた状態で行ってください。手が濡れた状態で作業を行うと、誤って手を滑らせてヘルメットを落下させたり、思わぬケガを負ってしまうおそれがあります。

シールドを外す時、内部ロックの解除が不完全な状態で無理にシールドを外そうとすると、ホルダーが外れたりシールドを破損させるおそれがありますのでご注意ください。リリースレバーをホルダー内に収納する際は、必ず下向きに収納してください。

J シールドの付け方

■シールドは片方づつ取り付けを行います。

①シールドをあてがう

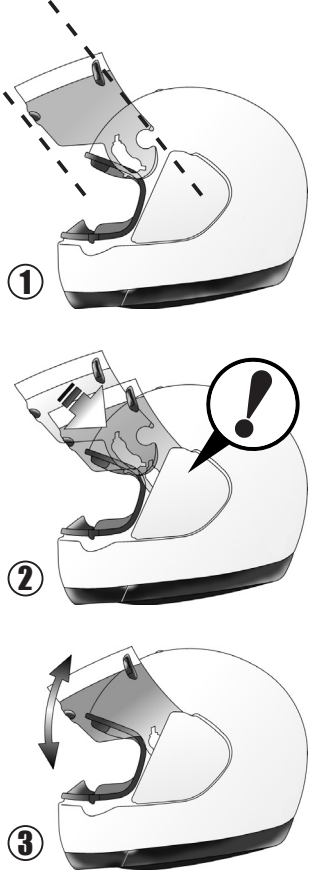
右図を参考に、シールドをシールド全開時と同じ角度でホルダーにあてがいます。

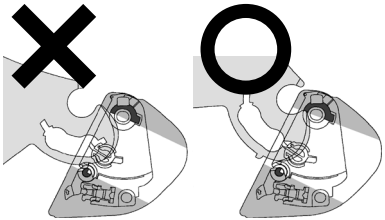
②シールドを差し込む

シールドの角度を変えないように注意しながら、シールドをベースとホルダーとの隙間にシールドを差し込みます。途中、内部ロックの段差で止まりますが、それを乗り越えるように更に差し込みます。そして、カシャッ！とロック音がしたら取り付け完了です。

③シールドの動作を確認

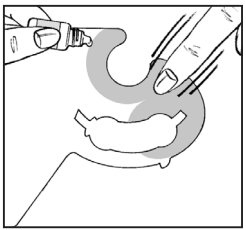
シールドを上下させ、シールドの動きが渋くないか、ホルダー及びシールドが外れないか、必ず確認してからヘルメットをご使用ください。





上図の左のようにシールドを差し込む角度が違うと、シールドベースの構造物によってシールドがブロックされるため、シールドを差し込むことができません。

※シールドが入りづらい時は、ホルダーに差し込む時にシールドを小刻みに上下させながら差し込んでみてください。また、動きがスムーズでない場合は、下図のシールドのグレーの部分に潤滑用シリコンを少量塗布してください。

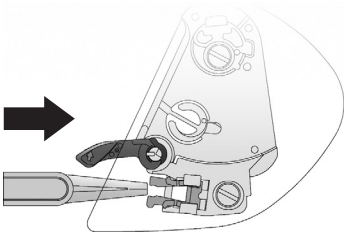


K ホルダーの着脱

■ホルダーの着脱は、予めシールドを取り外してから行います。

ホルダーの取り外し

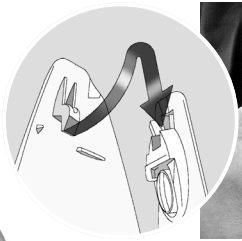
先ず、リリースレバーを邪魔にならない位置まで上げます。次に、帽体とホルダーとの隙間に見える赤いロックレバーを、割り箸やスプーンの柄などで奥に押し込んでください。ロックが解除されるとホルダーが浮き上がりますので、ホルダーを上方に持ち上げてホルダーを外してください。



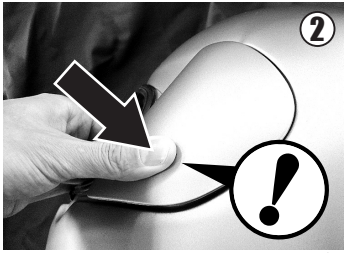
※リリースレバーがホルダー内に隠れている場合は、レバー下に細い棒を差し込んで引き出します。

ホルダーの取り付け

ホルダー裏面の上部フックをベース上部の窪みに引っ掛け、ヘルメットの段差(ホルダーを取り囲むライン)とホルダー形状とを合致させます。次に、ホルダー裏に固定フックのある位置(下写真の★印)を、ホルダー上から少し勢いを付けてパチン!と押し込んでください。



パチンと音がしてもロックが不十分な場合があります。ホルダー前方に指をかけ、めくるような力を加えてもホルダーが外れないことを確認してください。



ホルダーの取り付けが不十分だと、シールドを取り付ける際やヘルメット着用時にホルダーが外れるおそれがあります。

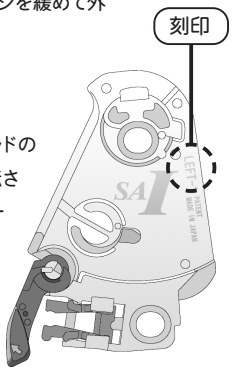
L シールドベースの着脱

シールドベースの取り外し

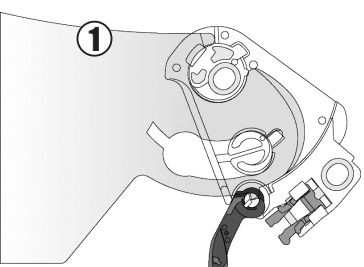
シールドベースの着脱は、シールドとホルダーを取り外してから行います。シールドベースを止めているネジは左に回すと緩みます。１０円硬貨を使って全てのネジを緩めて外してシールドベースを取り外します。

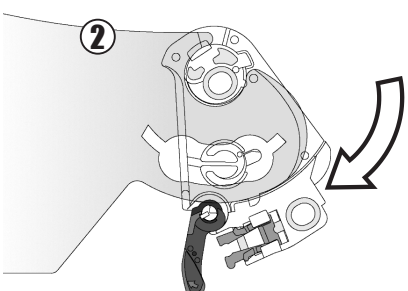
シールドベースの取り付け

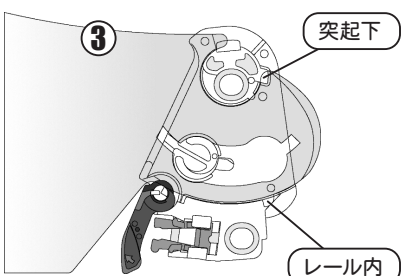
シールドベースの刻印で左右を確認して、下図①のようにベースをシールドの内側からあてがいます。次に、②の矢印の方向にシールドベースを回転させます。シールドベースの回転が終了した時点で、③で示した部分のシールドがシールドベースの突起下とシールドベースのレール内に入っていることを確認してください。



刻印で示される左右は、実際にヘルメットをかぶった状態での左右方向を表します。



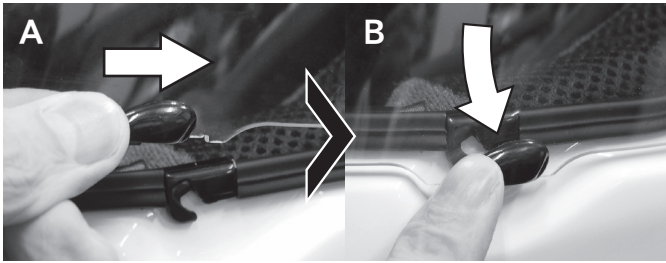




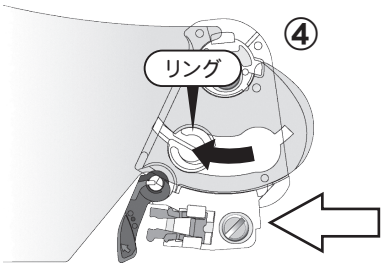
ヘルメットへの取り付け

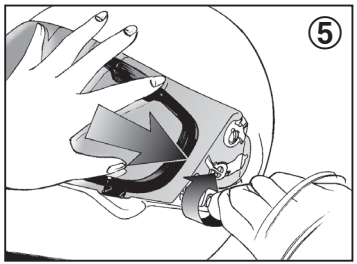
左右のシールドベースが取り付けられたシールドをヘルメットの窓にセットしてシールドベースをネジで取り付けますが、シールドベースが自由に動かせる程度にネジを締めてください。そして、ロックレバー裏面の突起がロックボディー下に正しく掛かっていることを確認してください。

A：ロックレバーが前に移動している場合は、止まる位置まで後退させます。
B：レバーを引き下げ、裏面の突起をロックボディーの下に引っかけます。



次に、図④のようにシールドベースの下側を前に押し、シールドの穴の最前部にシールドベースのリングを密着させます。その後、図⑤のようにシールドを手のひらでシールドベース側に押し付けてシールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってください。





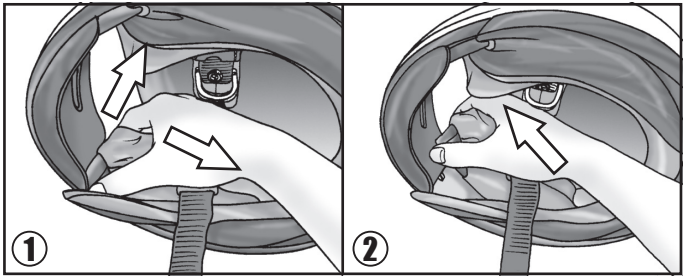
シールドが窓ゴム全周に密着するように、シールドを手のひらでベース側に押し付けながらネジを締めてください。

シールドベースの取り付けが完了したら一旦シールドを取り外します。そして、左右のホルダーを取り付けてから再度シールドを取り付けてください。
尚、シールドベース・ホルダー・シールドの取り付けが不完全な場合、使用中に脱落するおそれがあります。シールドを上下に数回動かして動きが正常かどうか、作動確認を必ず行ってください。

M ＦＣＳパッドの着脱

ＦＣＳパッドの取り外し

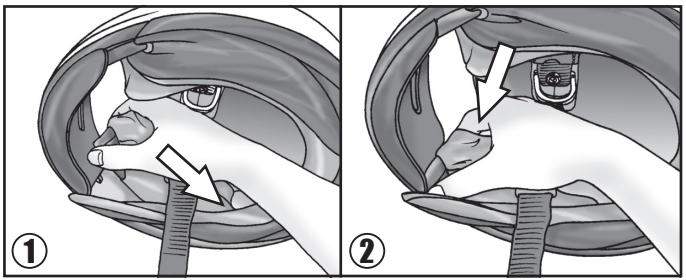
ＦＣＳパッドの前方をつかんでヘルメット後方に向かってバックさせます。すると、ＦＣＳパッドの前方のロックが解除されるので、ＦＣＳパッド前方を持ち上げます。パッドの前方が外れたら、ＦＣＳパッドを斜め前方に抜き取ります。



ＦＣＳパッドの取り付け

■予め、あご紐をＦＣＳパッド中央の穴に通しておきます。

ＦＣＳパッドの後方から先にヘルメットにはめ込み、ＦＣＳパッド前方をロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、ＦＣＳパッド前方を上下左右に動かしても、ＦＣＳパッドにガタ付きが生じなければＯＫです。



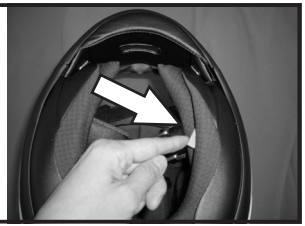
ＦＣＳパッド内の緩衝体は、強い力を加えると折れてしまいますので取り扱いにはご注意ください。

危険

ＦＣＳパッドを装着せずにヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでＦＣＳパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通してパッドを正しく取り付けてヘルメットをご使用ください。

危険

エマージェンシータブが露出した状態でヘルメットを使用するのは絶対にお止めください。ループ状になったエマージェンシータブが突起物や周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブは、システムネックの下に完全に隠れるように押し込んでください。

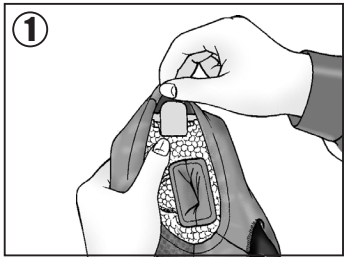


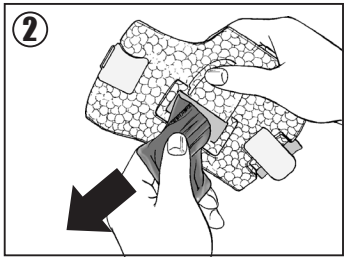
N パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

ＦＣＳパッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。次に、ＦＣＳパッド裏面のストッパー（あごご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってパッドカバーを引き出します。

パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます。（洗濯ネットの使用を推奨）





パッドカバーの取り付け準備

■ＦＣＳパッド本体とパッドカバーの左右を確認します。

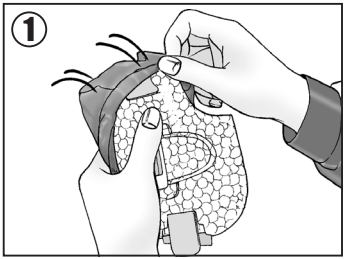
パッド本体とカバーには、左（Ｌｅｆｔ）右（Ｒｉｇｈｔ）の表示ラベルが付いています。

※ＦＣＳパッドの説明では、エマージェンシータブやパッドの本体構造などが一部省略されています。

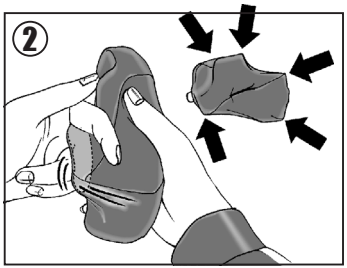
パッド本体の表示

カバーの表示

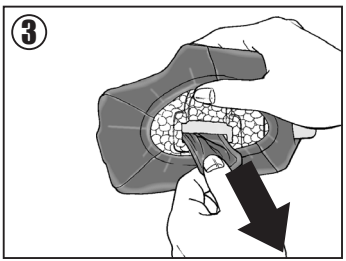
図①のように、パッド本体に前方からパッドカバーをかぶせます。尚、エマージェンシータブは右の写真のように、パッドカバー前方の穴へ通してカバーの外に出しておきます。



カバーをかぶせた直後は、ウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。
ウレタンパッドの角を出すには、図②のようにＦＣＳパッドの頬にあたる面の中央の孔に指を入れ、図②の矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッ！と引っぱり上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。最後に図③のようにＦＣＳパッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、ＦＣＳパッド裏面の四角い窪みにキチンと収めます。



ＩＲ－ＦＣＳパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が採用されています。
※調節方法は、当取扱説明書の３０ページをごらんください。



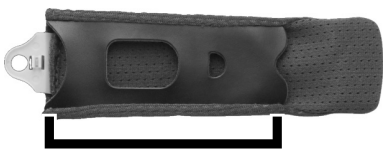
O ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。
②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。
③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側も同じ手順でストラップカバーを外してください。

ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーの向きは、合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



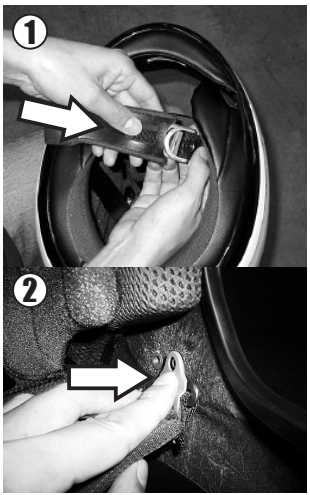
L：左（裏の合成皮革は短い）

R：右（裏の合成皮革は長い）

左側ストラップカバーの取り付け

①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。
②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせ、押し込んで取り付けます。

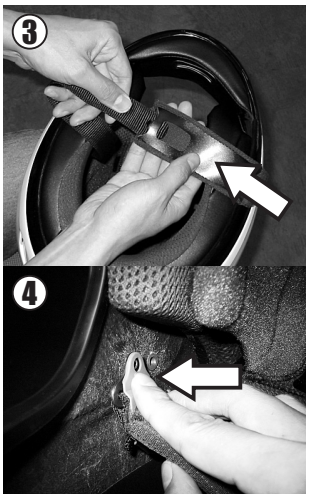
カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。



右側ストラップカバーの取り付け

③カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。
④カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせ、押し込んで取り付けます。

カバーの途中の穴に指を入れて送り出すと、あご紐を楽に通すことができます。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

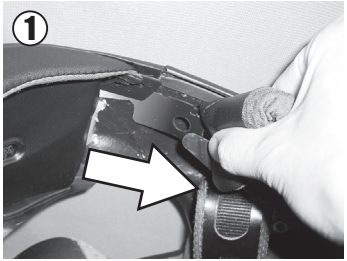
P システムネックの着脱

システムネックの取り外し

■予め、左右のＦＣＳパッドを外しておきます。

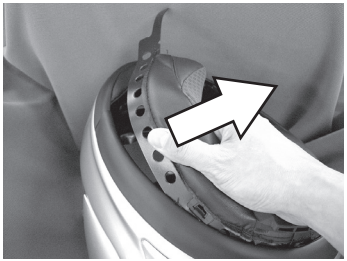
①センターパッドの両脇に差し込まれているシステムネックの先端（枠の延長部）を左右とも抜き取り、システムネックの先端及びサイド部をフリーにします。

②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に３～４ｃｍほどスライドさせます。すると、システムネックのロックが解除されるので、システムネックを取り外すことが可能となります。



ネックの中央をしっかりと持つ。

ネックを横にスライドさせます。
※方向は左右どちらでもＯＫ！

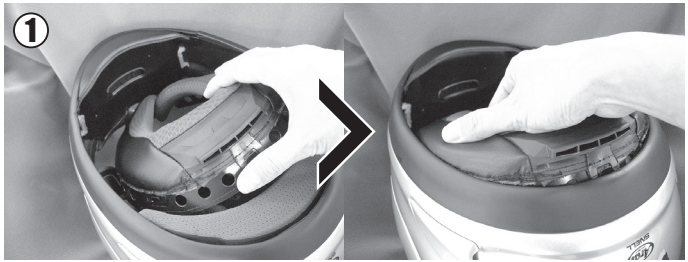


ネックを枠ごと持って取り外します。

システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかり持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

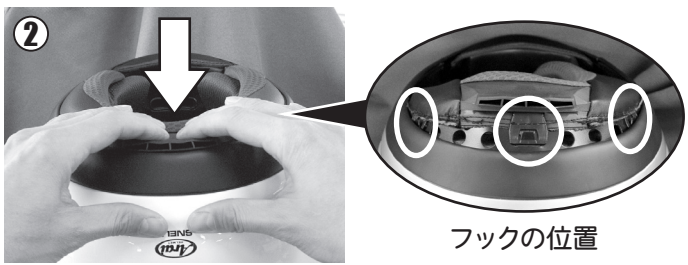
システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。中央のフックから先に上から押し込んで取り付け、次に左右フックも上から押し込んで取り付けます。

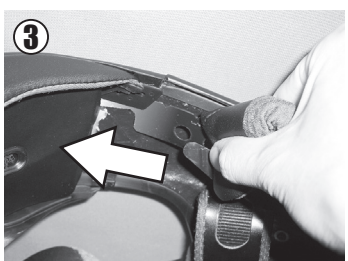
取り付け後にネックパッドを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。



フックの位置

③システムネックの先端部をセンターパッドの裏に差し込み、ＦＣＳパッドを取り付ければ作業終了です。

枠の先端がセンターパッドに正しく差し込まれていない場合、先端部が皮膚に接触するおそれがあります。



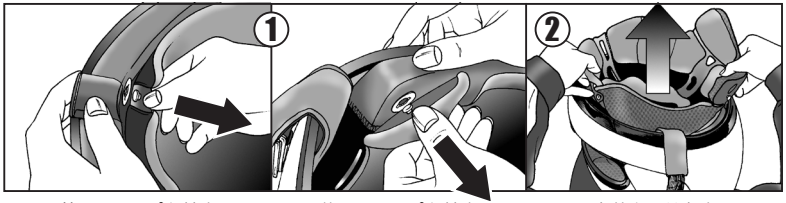
システムネックの大きさはサイズによって異なります。

システムネックのサイズ設定	
54cm ～ 59-60cm 未満	M
61-62cm 未満	L

Q システム内装の着脱

内装の外し方

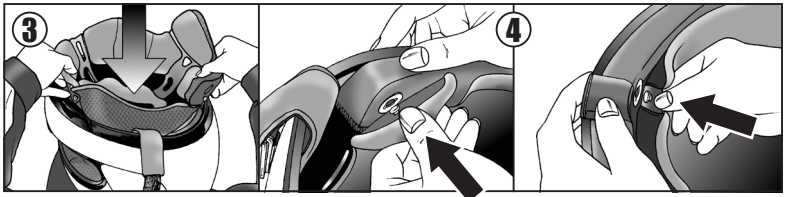
①システム内装は四つのスナップで取り付けられています。それぞれのスナップのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってスナップを取り外してください。
②システム内装をヘルメットから取り出します。



前のスナップを外す　後のスナップを外す　内装を取り出す

内装の付け方

③内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。
④システム内装のそれぞれのスナップ位置を合わせてパチンと留めます。取り付け完了後は、歪みの無いように内装を整えてください。



内装を入れる　後のスナップを留める　前のスナップを留める

スナップ及び内装枠の破損防止のため、全てのスナップを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に装備されたプロテクターやエアーダクトの突起がヘルメット内を傷める場合がありますのでご注意ください。

R ヘルメットのサイズ調整

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調整が行えます。システム内装とＦＣＳパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭周りの調整

【５４と５５－５６】、そして【５７－５８と５９－６０未満】には、それぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により、右表のようなサイズ調整が行えます。内装枠のサイズは数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると、内装を取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットのサイズ	内装枠のサイズとパッドの厚み		
５４ｃｍ	Ⅱ－７mm	Ⅱ－１０mm	
５５ｃｍ－５６ｃｍ		Ⅱ－７mm	Ⅱ－１０mm
５７ｃｍ－５８ｃｍ	Ⅲ－７mm	Ⅲ－１０mm	
５９ｃｍ－６０ｃｍ未満		Ⅲ－７mm	Ⅲ－１０mm
６１ｃｍ－６２ｃｍ未満		Ⅳ－７mm	
フィット感▶	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

ＦＣＳパッドによる頬部の調節

ＦＣＳパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのＦＣＳパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合がありますのでご注意ください。

ヘルメットのサイズ	パッドの厚み		
５４ｃｍ	２０mm	２５mm	
５５ｃｍ－５６ｃｍ	１５mm	２０mm	２５mm
５７ｃｍ－５８ｃｍ			
５９ｃｍ－６０ｃｍ未満	１２mm	１５mm	２０mm
６１ｃｍ－６２ｃｍ未満			
フィット感▶	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

調節パッドの除去によるヘルメットサイズの調節

■ＩＲ－ＦＣＳパッドの内部には、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを５mmほど薄くできます。

調節パッドの取り除き方

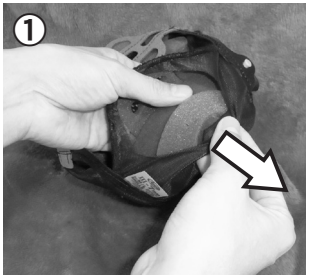
ＦＣＳパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので簡単に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。

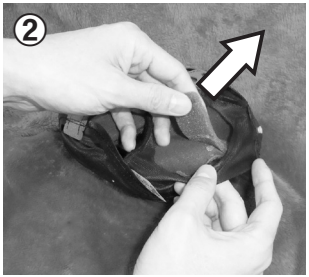
■ラパイド－ＩＲのシステム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を４ｍｍほど薄くできます。

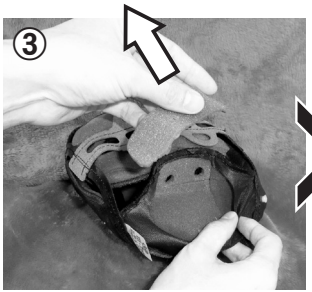
①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の、外側のポケットをめくります。

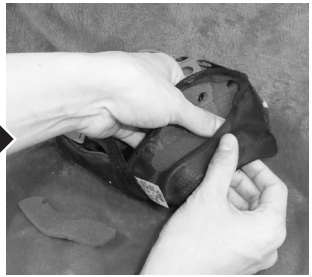
②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

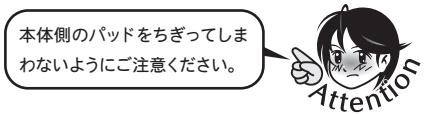
③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。











S ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

ホルダーなどのパーツ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。

注意

お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。

危険

シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。

シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

ヘルメット本体の洗い方（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

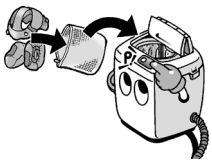
ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装、ドレンキャップを取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。

注意

ヘルメットを乾燥させる際、５０℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

内装のお手入れ（柔軟剤を含まない中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

フルシステム内装（システム内装・ＦＣＳパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

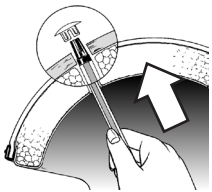


内装を洗濯機で洗う際は、必ず【お洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

ドレンキャップの外し方（ドレンホールは、洗浄後の水抜きやオプションダクトの装着に使用します）

衝撃吸収ライナーの天井部にはドレンキャップへと通じる穴があいています。その穴にボールペンの柄などを差し込み、ドレンキャップの底を押してください。外したドレンキャップは無くさないようご注意ください。



T オプションパーツリスト

パーツ名			部品番号
スーパーアドシスⅠシールド	クリアー		1101
	スモーク		1102
	ライトスモーク		1103
SAI MAX-Vブローシールド（クリアー）			1151
SAIブローピンロックシート	クリアー		1155
	ライトスモーク		1156
	イエロー		1157
スーパーアドシスⅠミラーシールド	ライトスモーク	ミラーシルバー	1170
		ミラーレッド	1171
		ミラーブルー	1172
		ミラーグリーン	1173
	セミスモーク	ミラーシルバー	1175
		ミラーレッド	1176
		ミラーブルー	1177
		ミラーグリーン	1178
スーパーアドシスⅠポスト付シールド	クリアー		1111
	スモーク		1112
スーパーアドシスⅠ用ティアオフシールド ※スーパーアドシスⅠポスト付シールド用（5枚1組）			1387
スーパーアドシスⅠWレンズシールド	クリアー		1121
	セミスモーク		1122

パーツ名		部品番号
スーパーアドシスJホルダー	グラスホワイト	3526
	グラスブラック	3527
	フラットブラック	3731
	メタルシルバー	5098
	バイオレットブラック	5099
IC-4ダクト	グラスホワイト	4935
	グラスブラック	4936
	メタルシルバー	4937
	フラットブラック	4938
	バイオレットブラック	4939
IR-FCSパッド	12mm	5595
	15mm	5596
	20mm	5597
	25mm	5598
RC・IQシステム内装	Ⅱ−10mm	4171
	Ⅱ−7mm	4172
	Ⅲ−10mm	4175
	Ⅲ−7mm	4176
	Ⅳ−7mm	4179
IRシステムネック	M	5601
	L	5602

パーツ名	部品番号
冷・乾ストラップカバー（クールグレー）	3606
ＩＰディフレクター2	2392
スーパーアドシスＩシールドベース	2258
スーパーアドシスネジセット	2511

エマージェンシータブについて

ＥＴポイントラベル
※モデルによって意匠は異なる

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドカバーに縫い付けられた目印（ＥＴポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。

注意

エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。

ベンチレーションダクトについて

▲ベンチレーションダクトは、強力な両面テープや小さな金属製ネジでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとするとヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

▲トップケースなどの収納ケース類にヘルメットを入れる際、収納時のヘルメットの周りに隙間が確保されている事を必ず確認してください。ケース内に十分な広さが確保されていない場合、ケースの蓋をバタン！と閉じた瞬間にヘルメットに衝撃や圧力が加わり、ベンチレーションダクトの変形や破損を生じさせるおそれがあります。

▲スクーターなどで車体にヘルメットの収納スペースが設けられている場合は、収納時のヘルメットの周りに十分な隙間が確保されている事を必ず確認してください。十分な隙間が確保されていない場合、ベンチレーションダクトの変形や破損を生じさせるおそれがあります。尚、ヘルメットを上下逆さまに収納するタイプではヘルメットの重量がベンチレーションダクトにダイレクトに加わるため、長時間の収納によってズレや剥がれが生じるおそれがあります。

▲暑い日にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

ツヤ消し塗装のヘルメットについて

▲ツヤ消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なツヤが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。

▲消しゴムでこすると、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。

▲ツヤ消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

冷 / 乾仕様生地について

▲冷 / 乾仕様の生地は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地より硬いもので強く擦ったりすると生地に毛羽立ちやほつれが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装に毛羽立ちやほつれが生じた際は、新しい内装をお買い求めになり交換を行なってください。

超撥水加工生地について

▲ＦＣＳパッドやシステムネックに部分的に採用されている超撥水加工生地は、排気ガスに含まれる煤煙や皮脂汚れが付着することにより撥水性能が徐々に低下します。その場合には洗濯用中性洗剤で洗うことで撥水性能が回復しますので、定期的なお手入れをお勧めします。

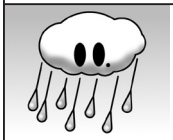
超撥水加工生地の内装を洗う時、柔軟剤を含む洗剤は使用しないでください。柔軟剤は吸水性をもっているので撥水機能を阻害する場合があります。もし洗ってしまった場合は、４０℃以下のお湯で生地に付着している柔軟剤を十分に濯いでからペーパータオル等で水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

シールドカラーの選び方

晴天

晴れの日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



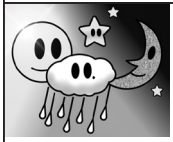
曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。

夕方・夜

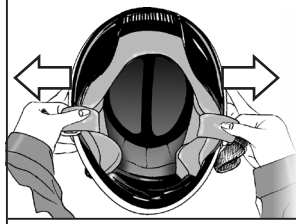
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーには、ライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

ＦＣＳ採用ヘルメットのかぶり方



ＦＣＳは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。

ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。こうする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。

天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っぱり、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

株式会社アライヘルメット

〒330 - 0841　埼玉県さいたま市大宮区東町2-12　☎048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）